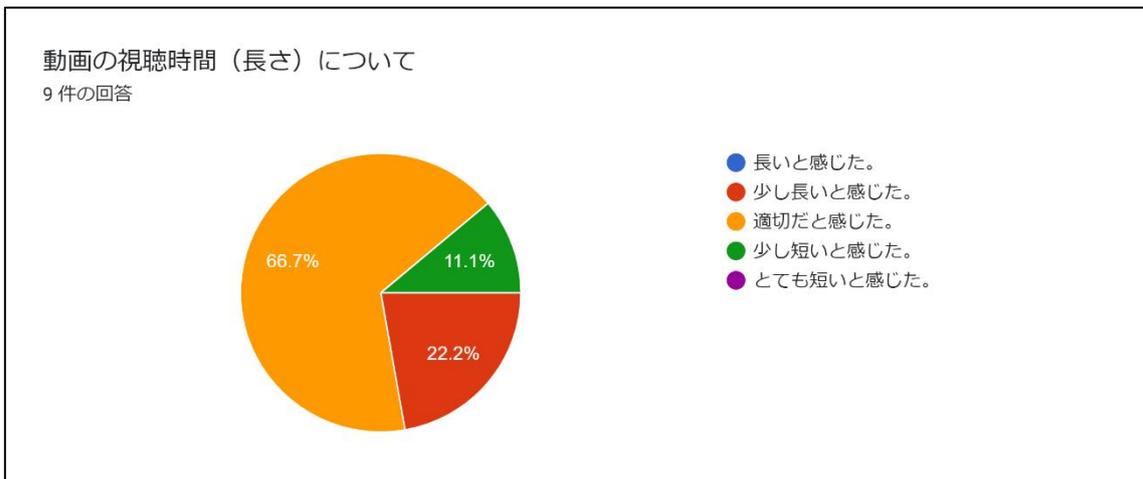
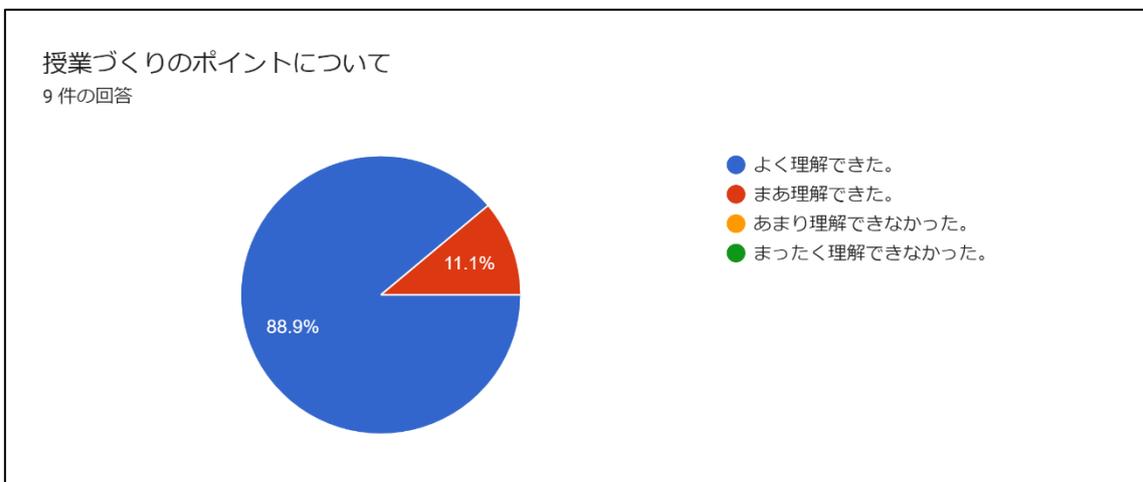
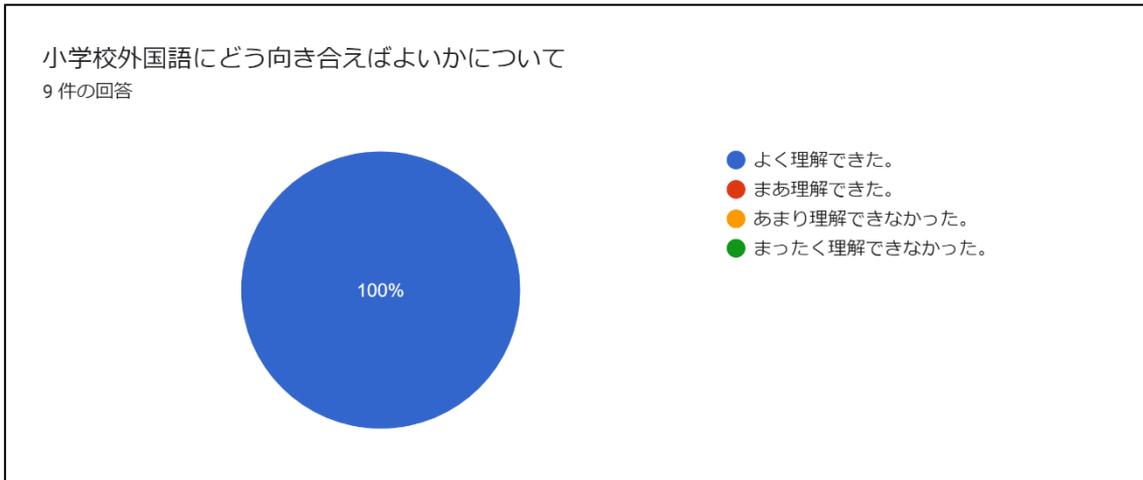


第1回講座 小学校英語にどう向き合うか(10/4 配信)の振り返り
(9名が回答)



講座1の感想をお書きください。

①講座の内容でも仰っていた「気持ちが9割」という言葉が心に残りました。僕も大学の時に留学生と同じ体育会に所属しチームの戦術などを伝えようとする事で相手も理解しようとしてくれたので伝えたいという気持ちがとても大切だと思いました。また、普段から外国語を使っていないと忘れてしまっていざというときに出てこなくなるので普段から外国語を使うように大人である教師が子供たちに仕掛けるところが良いと思いました。

②日本人の性格的なことから言葉がでないことを理解し、それを自分自身で知ることで子ども達にも伝えやすくなることが分かった。かんペきを求めるのではなく、できる範囲でしっかりと気持ちをこめて相手に伝えようとする姿勢が大切な事が動画から伝わりました。

③イントネーションの違いの話に、共感しました。わかり安かったです。

④外国語活動、外国語を進めていく中での、考え方の基本を再確認することができました。

⑤授業は、言葉の学習である。互いの考えや気持ちを伝え合う役割があり、本当に伝えたい思いを伝える、授業づくりが大切であることが印象に残ります。英語を含めた言葉の大切さ、なぜ、言葉を学ぶのか、外国語の授業の向こう側に見える大切な価値を改めて強く気づかされました。人と人をつなぐ授業を意識してこれからぬ（ここで切れていました）

⑥子ども達は大人が思うよりはるかにピュアに学んでいると感じます。大人が気負うことなく、一緒に楽しむことが1番なんだなと感じました。

⑦英語は気持ちが9割というお話しが印象的でした。言葉に乗せて運ぶのは気持ちや考えだからです。その伝えたいという意欲が高まるような授業づくり等の支援に全力で努めていきたいと思います。

(原文のまま、下線大城)

【担当者の感想】

先日、ある中学校で、フィリピンの中学生とオンラインで会話をするという授業を参観しました。オンラインで世界の中学生と英語で対話をできる時代になったことは本当に素晴らしいと思います。ところが、日本の中学生は、やはり自信なげで、相手の質問に即座に答えることもなく、不自然なポーズもありました。相手の質問はよく理解できている。そして、言いたいことも言えるはずですが英語が出てこないのです。英語以前の問題もあると強く

感じました。結局、英語教育（言葉の教育）は英語教育だけで完結せず、日本語を含め、学校教育全体を通して、考える力や発表能力を育てていかないといけないものだと感じました。

英国の中学校教育には「ドラマ（演劇）」という教科（必修科目）があるそうです。これは俳優を大量育成するものではなく、日常的な生活の中での言葉を使った自己表現能力、創造性、コミュニケーション力を高めるための教科だそうです（ブレンディみかこ『僕はイエローでホワイトで、ちょっとブルー』より）。異民族、異文化の混ざり合う英国では、誰もが生きていく上では必要のある技能なのです。

ところで前述のフィリピンの中学生とのオンライン会話は 1 回やって終わりというものではなく、今後も継続して行うそうです。子ども達の意識が変わっていくことを願っています。担当の先生のチャレンジにも敬意を表したいと思います。